

第8回運営調整部会 会議録

会議の名称	第8回運営調整部会
開催日時	平成20年10月1日(水)午後18時30分から20時30分
開催場所	川口市職員会館
出席者	(部会長)立石委員長 (部会員)金子委員、神尾委員、平委員、高橋委員、永瀬委員、浅羽委員、鈴木委員、三宅委員、吉澤委員、豊田委員
会議内容	1. 市民フォーラムの開催結果について 2. 対話集会の開催について 3. 起草作業について 4. 今後のスケジュールについて
会議資料	・次第 ・市民フォーラム開催結果 ・対話集会関連資料 ・今後のスケジュール
発言内容	<p>運営調整部会長</p> <p>市民フォーラムでの皆様のご協力に感謝する。</p> <p>1. 市民フォーラムの開催結果について</p> <p>・伊田チームリーダーが体調を崩したため、代理として第5検討部会から庵地委員を広報・PIチーム員とし、また、林委員をリーダー代行としたい。ご了承願いたい。(広報・PIチーム)</p> <p>・代行を務めるのでよろしく願いたい。</p> <p>・280席はほぼ埋まり、一般の方83人、町会関係者22人、市議会議員21人、市職員116人の計242人となっている。その他、委員や事務局が34人である。アンケート結果を見ると、わかりやすく身近に感じるようになったなどと概ね好評だったように思う。このアンケートの取り扱いについては全策定委員に配り、さらに編集委員会や広報・PIチームで参考にさせてもらいたい。(広報・PIチーム)</p> <p>・アンケート結果を広報誌に載せることは考えているか。フォーラムの報告の一部として添える程度でもいい。</p> <p>・スペースの関係もあり、掲載すること自体もさることながら、どこまで載せるかが難しい。検討したい。(事務局)</p>

- ・対話集会やパブリック・コメントも含め、素案たたき台を読んだ上で出された意見はどう取り扱うのか。
- ・市民が感じたことが入っているので、今後の編集作業や起草部会の参考にしてもらいたい。広報・PIでも参考にしていく。(広報・PIチーム)
- ・今後の広報・PI活動はどのように予定しているのか。
- ・対話集会が今後の主な活動である。その後の具体的な活動は未定だがいろいろ考えていきたい。(広報・PIチーム)

運営調整部会長

- ・今後も対話集会、パブリック・コメントがあり、加えて各部会からの意見も起草作業では参考にしたい。委員も意見を述べる上で、フォーラムなどの意見は参考となるだろう。

2. 対話集会の開催について

第1 検討部会

- ・対話集会で用いる資料が各検討部会でばらばらにならないよう、基本的な資料は統一したい。
- ・集客については委員の力でということだが、議員については問題もあるので除外としたい。
- ・進行文や盛り込むべき基本内容については広報・PIチームから示してほしい。フォーラムの内容が基本になると思うので、それを広報・PIチームでまとめて提示してもらいたい。
- ・素案は完成したものではなく、フォーラムの時点のものを使うのかを確認したい。

第2 検討部会

- ・役割分担や進行内容は作成済である。
- ・必要性については広報の記事などを参考にしたい。
- ・素案たたき台の説明は、20～30分使って丁寧に説明しようということになっている。
- ・参加者には名前・地区名を記載してもらうようにする。
- ・吉田委員が「対話集会」と大きく示せる看板を作成してくれた。他検討部会もぜひ使っていただきたい。
- ・パブリック・コメントへの呼びかけもしたい。

- ・議員以外の7名で行い、役割分担は既に決め、各自資料も作っている。フォーラムで使った素案たたき台の文字が小さいため、拡大したコピーを50部ほど用意する予定である。
- ・集客の問題があるが、地域の友人知人に声かけをしている。

第3 検討部会

- ・スケジュールが他検討部会よりも遅いため、14日の中央ふれあい館で開催するものを見学した上で内容を詰めたいと考えている。
- ・役割分担は決まっている。
- ・人数が20人以上となると多すぎて対話集会にならないので、集客はし過ぎないようにと考えている。

第4 検討部会

- ・本日提出されている資料がそれなのだろうが、統一した方針なり台本が必要と考えている。できれば、各検討部会で回答がばらついてはいけないので、想定問答集などもあるとよい。フォーラムのアンケートから想定できるだろうと思う。
- ・出席者は4、5名で、役割分担も決まっている。

第5 検討部会

- ・次回の会議への持ち越しとなったため、きちんとした結論はまだでないが、集客は、公民館でのチラシ配布や口コミでと考えている。

運営調整部会長

- ・なかなか難しいのかと思うが、想定問答集については、各検討部会間の統一を図るためにも用意してもらえればと考えている。
- ・今日皆さんに配布しているが、共通に使えるものとして、次第、司会進行表、以前配ったチラシ、アンケートを用意している。(広報・PIチーム)
- ・フォーラムで使った素案たたき台は、文字が小さかったため、文字を大きくしたものを用意する。パブリック・コメントのアナウンスは、対話集会チラシの裏面を使って行いたいと考えるが、いかがか。(事務局)
- ・統一した内容に関しては、私の所属している部会で検討しているので、それを利用してもらえればと考えている。対話集会で初めて条例にふれ

た市民のことも考えて解説するものとしたい。(広報・PIチーム)

運営調整部会長

- ・できるだけ統一していけるといいが、想定問答などは難しいだろう。やってみるほかないのかなと思う。
- ・想定問答についてだが、前回の運営調整部会では、質問にその場で応えるのではなく持ち帰るとなったのではないか。私の部会でもそういう前提で、対話に重点をおいて話を進めているので確認しておきたい。

運営調整部会長

- ・単純に答えられるものと、検討中のもので異なるかと思う。決まっていない内容については持ち帰るべきと考える。
- ・フォーラムのアンケート結果が参考になるだろう。それぞれで、検討しておけばよいのではないか。

3. 起草作業について

各検討部会からの意見

第1 検討部会

- ・法律の専門家である三宅先生に入っただきたいというのが共通の意見であった。
- ・3、4人ということでは、起草部会に誰も入らない検討部会が生じ、誰が両者をつなぐのかという懸念も提起された。各部会から1名とし、人選は委員長と副委員長に一任としたい。

第2 検討部会

- ・議員を除いた委員の中から選ぶべきという意見が多数を占めた。立候補を優先すべきと考えているが、第2 検討部会では誰も手を挙げなかった。

第3 検討部会

- ・運営調整部会の中から少なくとも1名、編集委員会から1名、検討部会長の中から1名選ぶということにした。

第4 検討部会

- ・まとめた意見ではないので矛盾する点はご容赦願いたい。
- ・起草作業の専門性を重視し、条例作成に特化した体制を構築して欲しい。その際、委員構成も編集委員会から一新し専門性を配慮したものとする。

- ・編集委員会の正副委員長が入るなどして、編集委員会との連続性を担保して欲しい。
- ・対話集会、パブリック・コメントの結果によっては、素案を超える提案を起草作業で盛り込むことも考えられるため、運営調整部会で議論する、編集委員会の機能も残しそちらで議論する、など意見を反映させる体制も作って欲しい。
- ・起草作業を2段階に分け、最初に意見を反映させ、後半で専門的に仕上げることも考えられる。

第5 検討部会

- ・構成は検討部会とのキャッチボールを考えれば各検討部会から1人ずつは選出されるべき。学識経験者が5人いるが、出席は固定とせず、その中から3名程度出してもらいたい。他に行政の法規担当1名、事務局からも1名入れ、以上の構成で10人程度としてもらいたい。委員長は学識経験者がよい。
- ・対話集会、パブリック・コメントの意見を誰がどのように反映させるかは明確化しておいた方がよい。どの程度出るかはわからないが、量によっては起草部会で仕分けすることは負担が大きく難しいだろう。
- ・起草部会でも当然見ることにしようと思うが、整理なども含めて起草部会がやるのか、それとも事務局がやるのか。
- ・当然事務局が見やすく整理するものと考えている。それを起草部会で、対応が来ているかどうか判断し、必要なら反映してもらいたい。事務局と起草部会で相談しながらやることになるだろう。(事務局)
- ・パブリック・コメントで出る意見の多くは、織り込み済みか、これまでに各検討部会や編集委員会で検討された内容だろうと想定している。ただ、もしも起草部会で対応できない、または一考に値する論点のものがあつた場合のことは考えておかなければいけない。
- ・起草部会で引っかかるものがあつた場合には、各検討部会も開催されるので、そこでまた検討していけばよいのではないかと。(編集委員長)

運営調整部会長

- ・一考に値する意見に対しては、各検討部会で検討をし、その意見に対して各検討部会が意見を出すのが良いのではないかと。

- ・起草部に負担はかかるが、今までのやりかたもそうであるし、それが一番よいだろう。
- ・今の話の流れだと、パイプ役として各検討部会から1名ずつということになってしまう。せめて各検討部会からの1名に部会長も含めるとしなないと、多くなりすぎる。(編集委員長)
- ・3、4人という枠にこだわらなければ各検討部会から委員が出せる。
- ・編集委員会での苦勞を考えれば、起草部会で同じ苦勞をはして欲しくない。例えば事務局から報告があれば3、4人ということでもいいのではないか。
- ・条文がここまでしぼりこめているのだから、3、4名程度でもいいのではないか。
- ・今までの流れを踏まえることから、編集委員には入っていただきたい。各検討部会との連携という意味では、各検討部会から1名は入ったほうがよい。
- ・専門性が重要であると考えている。学識者、法制担当、事務局が先導するならスムーズに進むと思う。そうできるなら各検討部会から1名でもいいのではないか。
- ・5検討部会でやってきたのだから各1名は出したほうがよいと思う。編集委員が入ることにはこだわらなくてもいい。一新となってもそれもまたいいのではないか。
- ・作業の難しさを考えると、オブザーバーとしてでも学識者は参加してもらいたい。
- ・パブリック・コメントは事務局だけではなく策定委員も苦勞する必要があるだろう。起草部会で検討することも重要である。
- ・検討部会長の学識者にはそれぞれカラーがあるので、そのカラーに染まってしまうのは避けたい。全員入るか、オブザーバーならばよいかと思う。
- ・1年以上勉強し意識も高めてきて、それぞれの検討部会の委員は成長している。市民が作成するという意味では、各検討部会から1名は選出してもらいたい。

運営調整部会長

- ・ 検討部会長が一人ではなくみんな参加するとなると、逆にまとまらないのではと感じるがどうか。
- ・ まとまらない部分は確かに出るだろうが、それは誰が委員になっても同じだろう。そもそも、川口らしさという点からはどうかと思う。
- ・ 事務局のスケジュール調整がまず難しそうだ。限られた日程の中でやるべき作業はまだ見えていない。カラーが出すぎるという意見ももっともだが、学識者ばかりというのも避けたほうがよいと思う。
- ・ 編集委員会での経験からすると、オブザーバーとしての立場では、学識者は中立性を重視しすぎて、遠慮して意見を言いづらそうであった。中立性は高いと感じているので偏ったカラーが出るとは思わないし、素案があるのだから、もうカラーが出るという次元ではない。きちんと委員に入っていたほうがよい。検討部会のチェックもある。(編集委員長)

運営調整部会長

- ・ 質問だが、第4検討部会から出された、編集委員にこだわらず一新した方がよいという意見はどういうことか。具体的に説明して欲しい。
- ・ 編集委員会での経緯に引きずられる可能性があることと、編集委員は必ずしも専門家ではないため、法制担当や事務局も含め専門家で構成して欲しいという意図である。

運営調整部会長

- ・ 意見が多様でありまとめづらいつと感じる。先般も話したが、最終的には、私と5検討部会長と鈴木編集委員長で本日の意見を踏まえて決定させていただくことにしたいがいかがか。

(一同異議なし)

運営調整部会長

- ・ それでは結果は次回の運営調整部会で報告するとしたい。

4. 今後のスケジュールについて

・素案のパブリック・コメントを10月20日に実施する。起草作業は、パブリック・コメントの意見、対話集会の意見も参考にして進める。運営調整部会は、12月に素案が確定した時点で開催する。(事務局)

・各検討部会の開催頻度についてはどう見通しているか。

・基本的には現行の頻度を想定しているが、必要に応じ柔軟に対応したい。(事務局)

・個人的なものではなく検討部会からの提案がある。今後、起草部会のメンバーとそれ以外の委員の温度差が出てくると思われる。連帯感を高めるために、11月か12月に全体会議を開催してもらいたい。例えば2部構成にして、全体会をやったあと、各検討部会に分かれてやるのはどうか。検討部会のメンバーをシャッフルして議論するというやり方もある。

運営調整部会長

・ぜひ検討課題として各検討部会に提案をして欲しい。

・主旨は違うが第4検討部会でも全体会を開いてもらいたいとの意見があった。素案が確定し素案作成に入る一つの区切りとして全体会で報告し、意識を切り替えることが必要だろうということだ。

運営調整部会長

・1月中旬の全体会議では遅いということなのだろう。ただ、新たな日程調整も難しいと思う。運営調整部会の日程にあわせれば集まりやすいと思うので、12月の運営調整部会の時間を早め、その後に全体会議としてはどうか。合同開催ということだ。

・ここで決定してもらえればそのようにする。(事務局)

運営調整部会長

・午後6時から運営調整部会、7時から全体会でどうか。年の瀬であるしできるのなら懇親会の開催を考えてもいいかもしれない。

・2回やってもらえれば起草作業の意味も深まる。ただ、起草作業で各検討部会とのやりとりを密接にすると作業のスピードが滞るかもしれない。それならば、11月中旬からとなっている起草作業の開始を上旬にはできないか。パブリック・コメントなども考えると、出来るだけ期間

をとったほうがよい。

運営調整部会長

- ・10月16日にメンバーを決定、設置をすれば、10月下旬からスタートできる。それでいかがか。

(一同異議なし)

- ・全体会だが、連帯感を高めることと、起草部会開始の区切りとすると、もっと早く開催してはどうか。日程的に難しいとは思いますが。

運営調整部会長

- ・新しく設定するとなると、委員には相当の負担になるだろう。そう考えると、10月16日が12月の運営調整部会にあわせての開催がよいと思う。

- ・10月の素案に対するパブリック・コメントだけでなく、12月の素案に対しても実施すべきではないか。そう考えると全体会も含めて早めに進めた方がよいだろう。2度目のパブリック・コメントは日程としては可能だろうか。30日間とせずに10日間程度でもいいのではないか。

- ・2回目の意見は議員に読んでもらい、議会で審議するという方法もある。

- ・通常は条例案前というだけでいつという規定はない。1回目のパブリック・コメントで30日という規定はクリアしているので、2回目は10日間でもいいということであれば充分可能だ。(事務局)

運営調整部会長

- ・10月16日に素案を確定させた方がよいだろう。そうすると、運営調整部会だけでなく全体会でも了承を得た方がよい。

- ・起草部会の人選もそこで報告するということが。

- ・対話集会とパブリック・コメントの意見をどう取り入れるかも決めるのか。(編集委員)

運営調整部会長

- ・そうなるかと思うが、正副委員長の検討事項としておく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・確認したいが、10月16日の18時から運営調整部会、19時から全体会議を開催することとする。明日開催通知を出すこととする。起草作業は10月下旬からとする。(事務局) ・逐条解説についても起草部会で議論するというだけでいいか。 ・逐条解説という硬いものではなく、こういう思いで作ったという解説書のイメージを持っている。起草部会で作成して欲しいと考えている。(事務局) ・16日には素案をまとめ、提出できるように頑張りたい。おそらく大丈夫だろうと思っている。(編集委員長)
次回以降日程	<p>次回 10月16日(木)18:00～ 同日19時から全体会を開催する。</p>